世界一ユニバーサルなまち神戸をめざして

こうべＵＤ広場から神戸を愛するみなさんへ

神戸を世界一ユニバーサルなまちにするために、私たちといっしょにユニバーサル社会の実現に向けて取り組んでいきましょう。
「ユニバーサルなまち神戸」とは何か、その実現のために私たちは何をしたらいいのかをまとめたものをみなさんと分かち合いたいのです。

私たちは、表題の“ **ユニバーサルな** ”という言葉は、

（“ 魅力的な ”“ ステキな ”“ 居心地のよい ”“ しなやかな ”
“ 心がおしゃれな ”“ 人にやさしい　人がやさしい ” …）

など、いろいろな言葉におきかえられるのではないかと考えました。
みなさんは、“ **ユニバーサルな** ”という言葉をどんな言葉におきかえますか？

この呼びかけを読んでいただき、いっしょに考えましょう。

こうべＵＤ広場

はじめに
「ユニバーサルなまち神戸」の実現に向けて

私たちはオシャレでハイカラなまち・神戸が大好きです。六甲山に抱かれた緑いっぱいの坂のある町を愛しています。港を中心に栄えた国際都市として異国情緒あふれる個性的なまちは、国内外から訪れた人々にも魅力的に映っているでしょう。また「まちづくり」の面でも、全国に先駆けて積極的に取り組んできました。いろんな文化を受け入れ、消化して、常に先取りの姿勢にあふれた、こんな素敵な神戸を私たちは誇りに思っています。

しかし、1995 年 1 月 17 日の早朝、突然の地震でこのまちの歴史は変わりました。これまでのまちづくりを根底から揺り動かし、生命や安全ということをすべての人に強く問い掛けることになりました。地域とのつながり、隣人とどうコミュニティを育んでいくか、仮設住宅や復興住宅での高齢者の居住環境などは、これからの高齢社会の課題にも通じるものです。これまで全国に先駆けて、「神戸市民の福祉をまもる条例」を制定し、福祉のまちづくりを展開する中で、積極的にバリアフリー整備も進めてきましたが、改めて車いす使用者中心のバリアフリーではなく、視覚や聴覚に障害のある人への情報障害の対応や内部障害者への対応はもとより、これまで以上に多くの人のことを考慮したまちづくりが必要であるということが、この震災から見えてきました。

近年、すべての人にとって安全快適な環境作りを目指す概念であるユニバーサルデザイン(ＵＤ)を施策の柱に掲げる自治体が増えつつあります。すべての人にとって安全快適な環境作りを目指す概念です。これまでのバリアフリーとの違いをことさらに強調するまでもなく本来、あるべき方向性を示す考え方です。

当初、多くの自治体や地域で、福祉のまちづくりとして取り組まれてきたことは、車いす使用者や視覚障害者の方などをはじめとする障害のある方の生活環境改善を目指してきたと言ってもいい内容でした。確かにそれは、物理的な対応策にとどまらず、社会的、心理的な対応にまで広がって展開されつつありますが、まだ多くの課題があります。これまでの福祉のまちづくりのターゲットは高齢者や障害者への配慮が中心で、ややもすれば「ひとにやさしい」ことは誰かに何かをしてあげることで、「する人」と「される人」に区分されることが多かったように感じます。できれば「さりげなく」「ふつうに」が当たり前のことになればと思います。

まちづくりは多様です。時代や社会の動きによっても、取り組むべきテーマは変化してきました。本格的な高齢化が進行する中で、各分野で精力的にその対策が講じられようとしています。

すべての人のためになることにはだれもが賛成しますが、具体的に実行するには難しいことも多いものです。観念的にデザイン論だけを展開してもまちづくりはできません。計画やデザインを一方通行で押し付けるような制度や方法はもはや通用しないのです。必要となるのは多くの利用者や市民が参加してつくりだすことです。仮にその時点で満点のつもりでも、時間の経過と共に不適合や不満足な部分は必ず生じます。絶えず謙虚で前向きに取り組んでいく必要があります。

夢と希望に溢れていたはずの 21 世紀は多くの課題に直面し、わが国においても長引く経済不況からの脱却が課題となっています。震災以降の神戸もその例外ではありません。だからこそ、こんなまちづくりをみんなで考え、みんなで創っていこうと、神戸からの元気な宣言を発したい。「はじめ物語」に終始することなく、これからの時代に持続的に発展していくまちづくりが大切です。新たなまちづくりの可能性を考え、活き活きと夢のあるユニバーサル社会の実現に向けた手がかりを求めていきたいと思っています。

この 1 年、このような思いで呼びかけ、集まったメンバーと幾度も討議した結果をまとめました。これからの私たちが一歩ずつ取り組んでいくべき方向性を示し、もっと多くの人たちと共に進んでいくための呼びかけにしたいと考えています。

そして、次の段階ではできるところからそれぞれ具体的なプロジェクトを一歩ずつ積み上げ、ユニバーサルなまち神戸をみんなで目指していきたいと願っています。

2004 年 3 月

こうべＵＤ広場　座 長　　**田 中 直 人**

「ユニバーサルなまち神戸」を共につくりましょう

これからの神戸づくりの方向性として、「クオリティ・オブ・ライフ（市民生活の豊かさ）」の視点をもち、人の力、地域の力を基盤とした「協働と参画のまちづくり」をさらに展開していきたいと考えています。

ユニバーサルな社会が目指しているものも、この「クオリティ・オブ・ライフ」の実現に他ならないのではないでしょうか。言い換えれば、真の「市民生活の豊かさ」は、市民一人ひとりが互いの多様性を認め合い、支えあいながら、「協働と参画」を基本として取り組むＵＤの考え方を抜きにしては実現できないものです。神戸のまちづくり、社会づくりの基本にＵＤの考えがきちんと据えられていることは、とても大事なことです。

広場の皆さんがまとめられたこの「呼びかけ」を受け、神戸がもっと愛され、誇れるまちとなるように市民・事業者の皆さんの力を結集して、共に取り組んでいきましょう。

神戸市長　**矢 田 立 郎**

目　　次

Ⅰ．呼びかけの背景
～私たちはなぜ神戸でユニバーサルデザインの取り組みが必要であると考えたのか～

１．**神戸のまちとユニバーサルデザイン** …… **1**
(1) これまで取り組んできた福祉のまちづくり
(2) 震災で実感した人と人とのつながりの大切さ
(3) 自然に恵まれ、オシャレで魅力あふれるまち

２．**こうべＵＤ広場（こうべユニバーサルデザイン推進会議）の発足から全市への呼びかけまで** …… **2**

Ⅱ．私たちが取り組む内容
～ユニバーサルなまち神戸が実現したとき、私たちの暮らしはどう変わるのか～

１．**めざすべきユニバーサルなまち神戸の姿** …… **3**
(1) 互いに人権を尊重し合い、ひとり一人が当事者としてかかわっていきます
(2) 誰もが暮らしやすいまちになります
(3) 産業が活性化し、活き活きとしたまちになります

２．**取り組みの内容** …… **4**
(1) ひとり一人を大切にする意識づくり …… **5**
人々の多様性の認識
普及活動・情報発信の推進
市民活動としての展開
学校における取り組みの推進

(2) 誰もが参画できるしくみづくり …… **6**
誰もが社会参画できる制度や基準
誰にでもわかる情報提供
多様なサービスの提供
誰もが働ける機会の充実

(3) 安心・安全で快適なまちづくり …… **7**
安全で快適なすまいづくり
誰もが利用できる施設づくり
神戸の資源を活かしたまちづくり
市民参画を基本とするまちづくり

(4) みんなが使えるものづくり …… **8**
誰もが利用できるユニバーサルデザイン商品の開発
おしゃれなものづくり
ユニバーサルデザイン商品の普及

Ⅲ．ユニバーサルな社会の実現に向けて
～どうしたらユニバーサルなまち神戸になるのか～

１．**みんなでつくるまち** …… **9**
(1) 市民の役割
(2) 事業者の役割
(3) 行政の役割

２．**取り組みの推進とこうべＵＤ広場の役割** …… **１０**
(1)ユニバーサルデザイン情報の収集・発信
(2)ユニバーサルプロジェクトへの取組み
(3)ＵＤサポーターによる推進

３．**こうべのユニバーサルデザインを全国・世界へ発信** …… **１１**

ユニバーサルデザインの取り組みの例 …… **１２**

体系図 …… **１５**

おわりに …… **１６**

【参考資料編】

・ **こうべＵＤ広場メンバー名簿** …… **1**
・ **こうべＵＤ広場への参画について（呼びかけ）** …… **3**
・ **こうべＵＤ広場の活動経過** …… **4**
・ **ユニバーサルデザインに関する意識調査結果概要** …… **8**
・ **神戸のユニバーサルデザインへの取り組みの紹介** …… **１０**
地域での取り組み …… **１０**
意識づくりの取り組み …… **１１**
しくみづくりの取り組み …… **１２**
まちづくりの取り組み …… **１４**
ものづくりの取り組み …… **１６**
・ **用語の解説** …… **１７**

Ⅰ．呼びかけの背景

～私たちはなぜ神戸でユニバーサルデザインの取り組みが必要であると考えたのか～

１.神戸のまちとユニバーサルデザイン

(1)これまで取り組んできた福祉のまちづくり

神戸市では、障害のある方やお年寄りの方をはじめ、すべての市民が安全で快適にくらし、様々な社会活動に参加できるまちづくりを目指して、昭和 52 年には「神戸市民の福祉をまもる条例」を制定し、福祉のまちづくりを推進してきました。その範囲は、健康、労働、教育、住宅など生活全般にまで及ぶものです。さらに、協働のまちづくりによる神戸らしい景観や街並みの形成、環境と調和したまちづくりをはじめ、地域における見守り・交流などの「ふれあいのまちづくり事業」などにも取り組んできました。これらの取り組みは、他都市に先駆けて実施してきており、いつも一歩先を目指してきました。

(2)震災で実感した人と人とのつながりの大切さ

しかし、平成 7 年 1 月、私たちを襲った「阪神淡路大震災」は、私たちから多くの生命、財産を奪っていきました。その後、世界中からの支援を受けながら、震災からの復興への努力が続けられていますが、震災時の地域での助けあいの経験から、私たちは人と人とのつながりの大切さを実感しました。そこでは、年齢・性別・国籍などの違いを越えてみんながひとつになって助けあいました。そしてそれは、復旧・復興の過程において、人とつながり、支えあいながら、市民が主体的にまちづくりにかかわっていこうという動きにつながっています。

復興のまちづくりへの取り組みには、みんなが幸せにならなければ、自分も幸せになれないという思いが大切であると私たちは考えています。そして、ユニバーサルデザインへの取り組みが、思いあう心を育み、互いに支えあいながら、誰もが安心して暮らせるまちづくりの実現につながり、みんなが幸せになるために必要なものと確信しています。

(3)自然に恵まれ、オシャレで魅力あふれるまち

神戸は、美しい港、緑豊かな六甲山という恵まれた自然を背景に、海、坂、山の変化に富んだ、魅力あふれる美しいまちです。

また、開港以来、世界に開かれたまちとして、ファッションや洋菓子、ジャズ、

多彩な食文化などの外国文化を受け入れ、さらに独創性を加え、明るく開放的で異国情緒豊かなまさに神戸ならではの文化をつくってきました。

この自然に恵まれ、オシャレで魅力あふれる神戸のまちを、神戸が大好きな私たちが誇れる「住み続けたいまち」にしていくために、そして神戸を訪れた誰もが「来てよかった・また来たいまち」と喜んでもらえるように、これまでの取り組みを継承・発展させ、また、震災の経験を活かしながら、私たち自身の手で「ユニバーサルなまち神戸」を実現していきたいと思います。

２．こうべＵＤ広場（こうべユニバーサルデザイン推進会議）の発足から全市への呼びかけまで

ユニバーサルデザインに基づく様々な活動はすでに始まっています。震災で大きな被害を受けた長田区では、「長田区ユニバーサルデザイン研究会」が発足し、復興のまちづくりの中にユニバーサルデザインの考え方を取り入れるなど、神戸で最初にユニバーサルデザインの取り組みがスタートしました。また、「社会福祉法人プロップステーション」でも、ユニバーサル社会の実現をめざし、早くから「チャレンジド」の自立と社会参画・就労推進に向けた取り組みが進められてきました。

さらに、「神戸婦人大学」でも、生活福祉学部へユニバーサルデザイン学科を創設し、ユニバーサルデザインの学習に取り組む人も増えてきました。

平成 14 年には、様々な分野で経験と実績の豊かな市民が結集した「政策提言会議」が開催され、「ユニバーサルデザイン」もテーマのひとつとして取り上げられました。

平成 15 年 5 月、このような動きを結集するとともに、神戸を世界一ユニバーサルなまちにしていこうと有志で呼びかけを行い、こうべＵＤ広場（こうべユニバーサルデザイン推進会議）を発足させました。

私たち、こうべＵＤ広場では、ミニ講座や施設見学などを通して、ユニバーサルデザインに関する共通認識を持ちながら、ユニバーサルなまち神戸の実現に向けた議論を重ねてきました。その中で、実現にあたっては、市民・事業者・行政が共通の理解と目標のもと、ユニバーサルデザインのまちづくりに参画し、実行していく必要があると考え、みんなが目指すべき目標や取り組むべき具体的な内容をとりまとめ、呼びかけていくことにしました。この呼びかけを通して、広くユニバーサルデザインの考え方が理解され、こうべのまち全域で取り組みが始められることを願っています。

Ⅱ．私たちが取り組む内容

～ユニバーサルなまち神戸が実現したとき、私たちの暮らしはどう変わるのか～

私たちが何をしていったらよいのかを検討するにあたり、まず、神戸がユニバーサルなまちになるとはどのようなことなのか、そのイメージをみんなで共有しようと考えました。そうすれば、実現に向けて取り組むべき具体的な内容が明らかになると考えたからです。

１．めざすべきユニバーサルなまち神戸の姿

(1)互いに人権を尊重しあい、一人ひとりが当事者としてかかわっていきます

年齢・性別・文化・身体の状況など人々が持つ様々な個性や違いを越えて、私たち一人ひとりが、まちやもの・サービスづくりをはじめとするあらゆる分野で、互いに多様性を認めあい、思いあう心を持って行動します。自分が相手の立場に立ったときのことを想像し、自分のこととして理解することが求められます。これがユニバーサルデザインの取り組みにあたっての基本となります。

これまでの「する側」と「される側」という固定的な考え方、「する側」から「される側」という一方通行的なとらえ方、それらを前提にしたしくみや制度などを見直し、すべての人が社会の一員としての役割を持ち、持てる力を発揮し、支えあう社会をユニバーサルな社会と考えます。そこでは、人権が尊重され、自由な社会参加が保障され、一人ひとりが当事者として主体的・自主的にかかわることができます。

(2)誰もが暮らしやすいまちになります

私たちそれぞれが不便だと感じていた建物や交通施設をはじめいろいろな設備やサービスが整備されることで、今まで以上に出かけやすく、使いやすくなります。

あわせて、くらし方や働き方のしくみも変えていくことが大切であり、これまで出来ないものだと思っていた事の多くが出来るようになります。一人ひとりがこれまでと違ったくらし方を創り出すことができます。

ユニバーサルな社会は、みんなが幸せに暮らせる社会であり、その実現は、高齢者や障害者だけのためではなく、全ての人自身の問題であることを改めて気付いてほしいと思います。

高齢者や障害者に限らず、小さな子供のいる人・文化や言葉の違う人が社会で不便を感じるのは、不便を生み出す社会のしくみの問題であるともいえます。これからは発想を大きく転換し、不便を生む社会を見直していく必要があると考えます。

(3)産業が活性化し、活き活きとしたまちになります

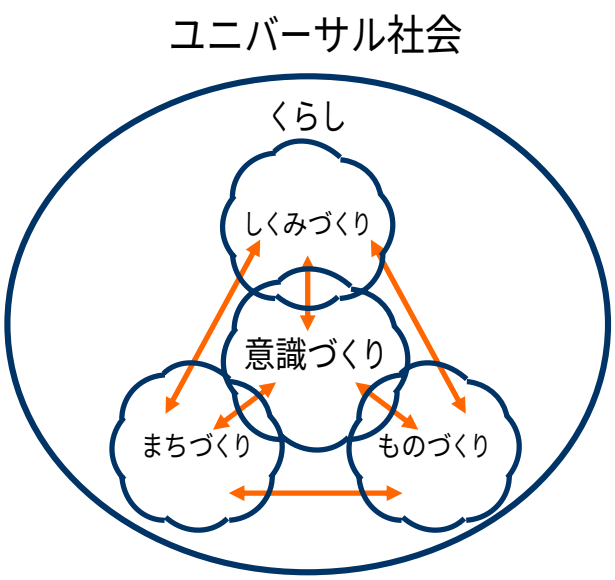
地場産業を中心に、消費者の声を取り入れた神戸らしいオシャレで機能的なユニバーサルデザイン商品の開発・普及を促進し、神戸産業が活性化した元気なまちを実現します。

ユニバーサルデザインのまちづくりやものづくりに取り組んでいくということは、これまでいかに供給者側の視点に立って進められてきたかということに気づき、これからは利用者側の視点に立っていくということを明らかにしていくことです。

ユニバーサルデザインに取り組むことにより、例えば地域のみんながかかわって『名物』が生まれ、文化となり、まちの誇りやパワーを掘り起こします。ケミカルやアパレルなどをはじめとする地場産業からも文化が生まれ、ひいては人づくりや地域づくり・まちづくりにつながっていきます。

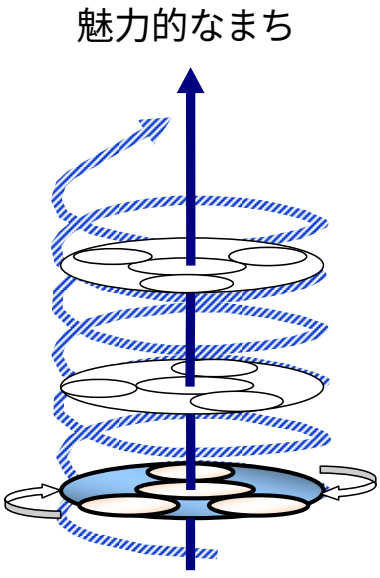
2.取り組みの内容

ユニバーサルなまち神戸の実現に向け、最も重要で基本となるのが「意識づくり」です。そして、意識づくりを核としてまちづくり、ものづくり、しくみづくりのそれぞれの分野でユニバーサルデザインの取り組みを推進します。そして、それらすべてが私たちのくらしとなり、ユニバーサルな社会の実現につながるものです。これらは相互に深く関わりながら、補完的・一体的に展開していくものですが（**図-１**参照)、ここでは、便宜的に(1)意識づくり、(2)しくみづくり、(3)まちづくり、(4)ものづくりの４つの分野について取り組む内容を示します。また、ユニバーサルな社会は市民参画のプロセスを経ながら、常に見直しを重ね、魅力的なまちをめざして進化しつづけていくものです。（**図-２**参照）



それぞれが相互に深くかかわりながらつくる
ユニバーサル社会

図－１



常に魅力的なまちを目指して進化しつづける
ユニバーサル社会

図－２

(1)一人ひとりを大切にする意識づくり

ユニバーサルな社会を実現するためには、人が人を対等な人として尊重し認め合えるよう、私たち一人ひとりがユニバーサルデザインの考え方を正しく理解し、互いの多様性を認め合い、相手の立場に立って行動することが重要です。

平成 15 年 3 月に神戸市が行なった「ユニバーサルデザイン」に関する意識調査では、「言葉も考え方も知っている」と回答した人は 17.9%、「言葉は聞いたことあるが、考え方は知らない」と回答した人は 22.7%であったのに対し、「言葉も考え方も知らない」と回答した人は 47.1%と、ユニバーサルデザインの理解度は低いものでした。

一人ひとりがユニバーサルデザインの考え方を正しく理解するとともに、自分自身の問題として考え、それぞれの活動において、主体的に取り組んでいけるよう、考え方の普及を図っていきましょう。

人々の多様性の認識

一人ひとりの個性を認め合うために、多様な人々との交流の場や体験の機会を増やしていきましょう。そして、学んだり、働いたり、遊んだりという様々な日常のくらしの中で、多様な人々がいることがあたりまえの社会を実現していきましょう。

普及活動・情報発信の推進

ユニバーサルデザインの考え方を市民や事業者のみんなが身に付けていくため、様々な機会を捉えて広報・普及活動に取り組むことが大切です。また、市内の大学や研究機関と連携した調査研究に取り組むことや、神戸のユニバーサルデザインに関する情報などを収集するとともに、誰もが簡単に入手できるよう、様々な広報媒体による情報発信を行っていきましょう。

市民活動としての展開

神戸では、これまで消費者団体、福祉団体、地域団体などが活発な市民活動を展開してきましたが、震災を契機に新たなボランティア・ＮＰＯも登場してきました。

また、最近では、地域が主体となったユニバーサルデザインへの取り組みも見られるようになりました。今後も、一人ひとりの市民をはじめ地域やＮＰＯなどの市民力による「ユニバーサルデザイン市民活動」として展開していきましょう。

学校における取り組みの推進

ユニバーサルデザインの考え方を子どもの頃からごくあたり前のこととして身につけるため、学校での取り組みを進めましょう。子どもを通して、家庭や地域への普及も期待できます。

(2)誰もが参画できるしくみづくり

誰もが自由に社会参画できるとともに、より便利で高品質なくらしづくりを目指して、社会の様々な制度や基準、情報・サービスの提供の仕方などについて、ユニバーサルデザインの視点から見直していきましょう。

また、既にある様々な資源をつないだり、組み合わせたりすることにより、より利用しやすいものに変わっていきます。このつなげていくしくみも大切です。

誰もが社会参画できる制度や基準

年齢・性別・文化・身体の状況などにかかわらず、誰もが社会参画できるよう、社会の様々な制度やルールを見直していきましょう。また、まちづくりやものづくり、さらには運営などに関する方針や基準をユニバーサルデインの視点から見直すとともに、建物や商品をつくった後も、それらをより利用しやすいものへと高めていきましょう。

誰にでもわかる情報提供

生活に関する重要な情報や災害情報をはじめ、様々な情報については、誰もが必要なときに簡単に入手できるよう、多様な広報媒体の活用や、新しい情報伝達機器の活用などにより、わかりやすく提供するとともに、情報の提供方法についても多様な人々に配慮していきましょう。

多様なサービスの提供

サービスの提供にあたっては、おもてなしの心を持ち、様々な人々に配慮し、自分に合ったサービスが選べるように、多様できめ細やかな対応が大切です。

窓口等におけるきめ細やかな案内、店舗やホテルなどのおもてなしサービスの充実をはじめ、各種イベント等の実施にあたっては、誰もが自由に参加し、楽しめるよう工夫しましょう。

誰もが働ける機会の充実

すべての人の社会参画を促進するため、誰もが働ける機会を充実するとともに、安心して快適に働けるよう職場環境の整備を推進しましょう。さらに、従来型の雇用形態にこだわらず、たとえば、一定の対価が得られるよう変化しているＮＰＯ・ＮＧＯも新しい働く場として活用するなど、誰もが社会を支える一員として、自らが働く場を創造していくことができるしくみをつくりましょう。

また、技術革新がめざましいＩＴ機器の活用は、促進のための大きな力になっていくものと思われます。

(3)安心・安全で快適なまちづくり

くらしの拠点となるすまいをはじめ、多くの人が利用する公益的施設や観光施設は、多様なニーズに配慮し、誰もが安全・快適に利用できるものを目指しましょう。また、震災で得た貴重な経験や教訓を今後の安心・安全なまちづくりに活かしていくとともに、災害時の対応などの防災対策については特に気をつけましょう。

安全で快適なすまいづくり

誰もが、いつまでも、安心して快適に住み続けられるすまいづくりを目指しましょう。つくり手の認識を高めるほか、生活者自身も自ら、安全快適なすまいづくりに取り組みましょう。また、そのために必要な情報が容易に得られることが大切です。

誰もが利用できる施設づくり

多くの人が利用する建物、交通施設、道路、公園、商店街などの公益的施設や観光施設については、誰もが容易にアクセスし、安全・快適に利用できるよう、整備を推進しましょう。

神戸の資源を活かしたまちづくり

神戸の美しい街並みや景観、坂などの特色ある地形を活かしたまちづくりを推進しましょう。

美しい街並みや景観にマッチした施設づくりをはじめ、美しい自然を活かした、安心して歩ける道、出かけたくなるような街並み、癒し・憩い・楽しめる交流の拠点となる公園などの整備に取り組んでいきましょう。

市民参画を基本とするまちづくり

まちづくりにあたっては、市民参画型のまちづくりを基本とし、それらの整備計画を作成する段階から、利用者の意見を聴き、多様な人々のニーズに配慮しながら、誰もが安全・快適に利用できるものを目指しましょう。基準にこだわらず、みんなが納得できるよう、議論しながら、お互いの立場を尊重し、誰もが利用しやすいよう想像力を高めていくことが大切です。さらに、利用されるようになった後も、常に利用者の声に耳を傾け、改善に努めていきましょう。

誰もが自分の住むまちに愛着を持ち、地域住民が主体的に取り組むまちづくりを進めましょう。

(4)みんなが使えるものづくり

多様な消費者の声を取り入れ、誰もが利用できるユニバーサルデザイン商品の開発・普及に取り組んでいきましょう。新しい商品が、ユニバーサルデザインの考え方が盛り込まれ、さりげなく使いやすいものとなれば、大きな需要を生み、神戸の産業の活性化につながります。

これまでの対象者を限定して作られてきた福祉･介護用品などのものづくりの考え方でなく、みんなが使える共用品の考え方に加えて、さりげなく、オシャレで、みんなが使ってみたいと思えるようなものづくりを目指していく考え方が広がっていくことが大切です。

誰もが利用できるユニバーサルデザイン商品の開発

消費者の声を集約し、新製品の開発だけでなく、既製品の改良に反映できるシステムの研究に取り組むほか、神戸の産業界におけるユニバーサルデザインの取り組みを促進し、誰もが快適に利用できるユニバーサルデザイン商品の開発を進めましょう。

おしゃれなものづくり

地場産業を中心に、オシャレで神戸らしい神戸ＵＤブランドづくりを進めましょう。

ユニバーサルデザイン商品の普及

様々な機会を通じて、ユニバーサルデザイン商品に関する情報発信を行います。また、福祉用品としてではなく、みんなにとって便利なものとして提供し、一般商品としての普及を促進しましょう。

Ⅲ．ユニバーサルな社会の実現に向けて

～どうしたらユニバーサルなまち神戸になるのか～

この呼びかけは、私たちが考えたユニバーサルな社会の実現に向けて、みんなで取り組んでいこうとする活動例を盛り込んでいます。

取り組みの内容を参考に、みんなが自主的にそれぞれの場で取り組んでもらえることを願っています。その時には、次のことに気をつけていくことが大切です。

１．みんなでつくるまち

誰もが安心して快適に暮らせる「人にやさしい・人がやさしい」まちは、そこに暮らし、働く「人」がつくりあげるものです。

市民・事業者・行政が、ユニバーサルデザインを正しく理解し、自分自身の問題として、当事者となって取り組んではじめて実現するものです。

(1)市民の役割

私たち自らが、自分が住むまちや暮らしに目を向け、まちづくりやものづくりのあり方を考え、積極的に関わっていき、そして、生活の中で何が不足しているのか、何が不便なのかをチェックする目を持ち、提言し、行動していくことが、まず実現に向けての第一歩です。

ユニバーサルデザインによるまちづくりにあたっては、多様な利用者に配慮したきめ細やかな取り組みが前提となりますが、何よりも大切なのは、私たち一人ひとりがみんなの役割を認め合い、支えあう心です。そして、困っている人に自然に手を差し伸べることのできる「人がやさしいまち」を実現していきましょう。

(2)事業者の役割

高齢社会を迎えるにあたり、高齢者をはじめ誰もが利用しやすい商品やサービスづくりに取り組むことにより、市場の拡大につながるほか、消費者の声を反映したよりよい商品やサービスづくりにつながっていきます。

私たち事業者も、商品づくり、店舗づくりをはじめ、接客やサービスづくりなどにユニバーサルデザインの考え方を積極的に取り入れ、常に、多様な利用者の意見を聴くなど、市民参画によるプロセスを重視するとともに、利用されるようになった後も、常に利用者の声に耳を傾け、一人でも多くの人が利用しやすいものへと改善していきましょう。また、誰もが働きやすい職場環境づくりにも取り組んでいくことが大切です。

(3)行政の役割

まず、行政が率先してユニバーサルデザインに取り組んでいくためにも、職員の意識づくりが重要です。

公共建築物、道路、公園などの公共施設の整備をはじめ、行政サービスなど市の施策をユニバーサルデザインの視点からチェックし、改善していくとともに、率先して取り組んでいきましょう。

また、大学、研究機関、他都市、企業との連携を図り、情報収集に努めながら、市民や事業者への普及・広報活動、情報発信に取り組むとともに、市民や団体の取り組みに対する支援も必要であると考えます。

２.取り組みの推進とこうべＵＤ広場の役割

私たちこうべＵＤ広場は、神戸のユニバーサルデザインを進めていくための原動力となり、ユニバーサルデザイン市民活動として全市展開していけるよう努めていきます。

(1)ユニバーサルデザイン情報の収集・発信

こうべＵＤ広場では、行政をはじめ、市内で活動している市民や事業者などのユニバーサルデザインへの様々な取組みに関する情報を収集し、広く発信していきます。また、これまで取り組まれてきたユニバーサルデザインの様々な取組みに対して、ユニバーサルデザインの理念が正しく理解され、取り組まれてきたかどうかメンバーも一緒に検証していきます。

(2)ユニバーサルプロジェクトへの取組み

ユニバーサルデザインは、一人ひとりができるところから、また、身近なところからひとつずつ取り組んでいくことが大切です。今後、全市で様々なプロジェクトを展開していけるよう、こうべＵＤ広場が核となり、市民・事業者・行政に働きかけながら、できるところから先行プロジェクトに取り組んでいきます。

(3)ＵＤサポーターによる推進

こうべＵＤ広場のメンバーとして、すでに、市内各地で自主的に活動している方をはじめ、ユニバーサルデザインの普及・推進を担う『ＵＤサポーター』を市内全域から募集します。ＵＤサポーターは各地域や企業などのユニバーサルデザインに関する情報の収集をはじめ、ユニバーサルプロジェクトへの取り組みを推進します。

３．こうべのユニバーサルデザインを全国・世界へ発信

ユニバーサルデザインとは、もともと「すべての人にとってできる限り利用可能であるように、製品、建物、環境をデザインすることである」と定義されています。

私たちは、この考え方をさらに人の意識やしくみなど社会全体にまで広げ、互いの多様性を認識することを基本とした新しいまちづくりとして提案したいと思います。そして、震災を経験し、人とのつながりの大切さを実感した神戸だからこそ、市民一人ひとりが主体となって取り組んでいる「ユニバーサルなまち神戸」の姿を、震災から 10 年にあたる平成 17 年には、全国・世界に発信していきたいと思います。

ユニバーサルデザインの取り組みの例

ここで掲げているものは、取り組みの例であり、具体的な取り組みは、それぞれの主体がそれぞれの場で取り組んでいくものです

一人ひとりを大切にする意識づくり

①人々の多様性の認識

・ともに学び、働ける学校や職場づくり
・誰もが参画できる地域コミュニケーションの推進
・ユニバーサルデザイン学習を通じた交流の推進
・異文化を理解し、交流できる機会づくり

②普及活動・情報発信の推進

・講演会や学習会の開催、広報やホームページによる発信、パンフレットの作成など
・シンボルマーク、キャッチフレーズ等を活用した普及
・地域や企業・団体への出前講座、学校への出前授業の実施
・まちやもの・サービスづくりを行なう行政や事業者の職員研修等の実施
・いつでも誰でもユニバーサルデザインに関する最新情報を入手できるよう、情報の提供

③市民運動としての展開

・ユニバーサルデザインを推進する「ＵＤサポーター」による活動
・地域やＮＰＯによるユニバーサルプロジェクトへの取り組み

④学校における取り組みの推進

・学校の総合的な学習の時間などを活用したユニバーサルデザイン学習の実施
・学校と地域・団体との交流
・教職員への研修の実施

誰もが参画できるしくみづくり

①誰もが社会参画できる制度や基準

・ワークショップ等の開催による市民参画型のまちづくり
・施設が多様な人々のニーズに対応したものとなっているかを把握するため、アンケートやＵＤチェックを実施
・現行の施設整備マニュアルや整備基準について、ＵＤの視点から再点検
・行政の施策をユニバーサルデザインの視点から再点検

②誰にでもわかる情報提供

・情報提供にあたっては、広報紙、テレビ、インターネットなどの様々な広報媒体を活用し、誰にでもわかりやすく伝わるよう工夫

・高齢者をはじめ、視覚・聴覚障害のある方や外国人など、情報が伝わりにくい方への情報提供については特に配慮し、ＩＴの活用をはじめ、点字、音声、多言語等による情報提供を推進

・いつでも誰でもユニバーサルデザインに関する最新情報を入手できるよう、情報の提供（再掲）

・精密機器等の取扱説明書等を簡易で分かりやすくするための消費者から提案できる仕組みづくり

・ライフラインが不通になるなどの小規模災害などのときに聴覚障害者への情報が伝わりやすい仕組みづくり

③多様なサービスの提供

・行政をはじめ、病院、ホテル、百貨店、銀行、駅舎などの窓口においては、誰にでもわかりやすい案内パンフレット等の提供のほか、多言語通訳、手話通訳、音声案内、骨伝導システムなど様々なコミュニケーション手段を導入

・行政や民間の施設内においては、わかりやすい案内表示を行うほか、特に手助けを必要とする方に対しては、スタッフによる人的サポートを充実

・行政や民間のイベントの実施にあたっては、会場へのアクセスをはじめ、誰もが会場内で自由に移動し、楽しめるよう、段差の解消、会場内の誘導サイン、だれでもトイレ、休憩コーナー等の整備、一時保育の実施、手話・多言語通訳・骨伝導システムの導入、点字・多言語資料の作成など

・アンケート等の実施により、どのようなサービスを必要としているのかを把握し、よりきめ細やかで多様なサービスの実施

④誰もが働ける機会の充実

・障害のある方、外国人、女性の雇用促進

・「誰もが働きやすい職場」について知恵を出し合う場づくり

・高齢者自らが何らかの形で社会を支える一員となることができるしくみづくり

安心・安全で快適なまちづくり

①安全で快適なすまいづくり

・すまいを創造する側（設計者や建築業者）の認識を高めるための講習会等の実施

・段差の解消、トイレ・浴室・キッチン等の改善、ホームエレベーター、手すりの設置、居心地のよい照明や色、利用しやすい住宅設備など、誰もが安全・快適に住める「すまい」についての調査研究を進め、わかりやすいパンフレットを作成

・「自分で取り組むすまいのＵＤ」：誰もが自分で簡単に安全快適なすまいづくりに取り組めるよう必要な情報を提供、パンフレットの配布、すまいに関する相談や講演会の開催

・「すまいのＵＤ」モデルハウスの展示

②誰もが利用できる施設づくり

・段差の解消、エレベーター・エスカレーター・スロープの設置、車いすやベビーカーが利用しやすい広めのスペースや駐車場などの設置

・車いす対応をはじめ、オストメイト対応設備、おむつ交換シート、子ども用便器等を備えた「だれでもトイレ」の整備

・位置、大きさ、わかりやすさ、色彩、連続性、多言語、ふりがな、絵文字、音声、点字などに配慮した誰にでもわかりやすい案内サインの整備

・多様な利用者に配慮したウォーキングコースやプレイゾーンなどの整備

・誰もが利用しやすいユニバーサル花壇や五感を刺激する公園など、多様なニーズに対応した公園の整備

・買物がしやすいように、商品配列、見やすい値札等の工夫

・電動カートなどを利用して楽に買物ができるショップモビリティーの取り組みの推進

・神戸空港におけるユニバーサルデザインの推進

③神戸の資源を活かしたまちづくり

・坂の多い神戸のまちの魅力を活かしながら、坂道へのベンチ等の整備

・夜間安心して利用できるよう、安全な路面や照明の工夫

・市民をはじめ観光に来られた方をあたたかく迎え入れられるよう、多様な利用者を想定し、位置、大きさ、わかりやすさ、色彩、連続性、多言語、ふりがな、絵文字などに配慮した誰にでもわかりやすい案内サインの整備

・花や緑、自然の息吹を誰もが五感を通じて感じ、癒し、憩い、楽しめる公園の整備

④市民参画を基本とするまちづくり

・具体的にまちづくりを進めるにあたり、市の計画・情報は早期段階で公開

みんなが使えるものづくり

①誰もが利用できるユニバーサルデザイン商品の開発

・消費者の声を取り入れたユニバーサルデザイン商品の開発に向け、市内企業や消費者団体等と連携したユニバーサルデザインものづくり支援システムの研究

・「こうべＵＤものづくり基準」の研究

・神戸の産業界におけるユニバーサルデザイン商品の研究・開発の推進

・「ＵＤアンテナショップ」

②おしゃれなものづくり

・高齢者を対象としたおしゃれなシルバーグッズの開発

・ユニバーサルデザイン神戸ブランドの研究

③ユニバーサルデザイン商品の普及

・様々な広報媒体を通した、ユニバーサルデザイン商品に関するＰＲ

・ユニバーサルデザインフェアなどのイベントにおけるユニバーサルデザイン商品に関する情報発信

・ユニバーサルデザイン商品に関する様々な情報が入手できるとともに、いつでも手にとって使えるような「ユニバーサルデザイン商品」情報の提供

・行政や、福祉施設、学校などにおいて、ＵＤ商品を積極的に利用

・「ＵＤアンテナショップ」（再掲）

体　系　図

背 景

●これまで取り組んできた福祉のまちづくり
●震災で実感した人と人とのつながりの大切さ　●自然に恵まれ、おしゃれで魅力あふれるまち

実現に向けた活動

☆“こうべ”の市民福祉総合計画 2010
☆政策提言会議ＵＤワーキング
など

こうべＵＤ広場

★長田区ユニバーサルデザイン研究会
★社会福祉法人プロップステーション
★神戸婦人大学生活福祉学部ＵＤ学科
など

こうべＵＤ広場からの呼びかけ

震災で得た、人と人とのつながりや共に生きることの大切さを踏まえ、すべての人の社会参加を促進し、誰もが安心して快適に暮らせるＵＤのまちづくりを推進する。

互いに人権を尊重しあい、一人ひとりが当事者としてかかわっていきます

互いの多様性を認め合い、すべての人が社会の一員としての役割を持ち、持てる力を発揮し、支えあうまち

一人ひとりを大切にする意識づくり

☆人々の多様性の認識
☆普及活動・情報発信の推進
☆市民運動としての展開
☆学校における取組みの推進

誰もが暮らしやすいまちになります

誰もが安心・快適に利用できる建物や交通施設などの整備を推進するほか、くらしや働き方など社会のしくみを見直し、誰もが暮らしやすいまち

誰もが参画できるしくみづくり

☆誰もが社会参画できる制度や基準
☆誰にでもわかる情報提供
☆多様なサービスの提供
☆誰もが働ける機会の充実

安心・安全で快適なまちづくり

☆安全で快適なすまいづくり
☆誰もが利用できる施設づくり
☆神戸の資源を活かしたまちづくり
☆市民参画を基本とするまちづくり

産業が活性化し、活き活きとしたまちになります

消費者の声を取り入れた神戸らしい UD 商品の開発・普及を促進し、神戸産業が活性化した元気なまち

みんなが使えるものづくり

☆誰もが利用できる UD 商品の開発
☆おしゃれなものづくり
☆ＵＤ商品の普及

実現に向けて

ユニバーサル社会の実現に向けて

～みんなでつくるまち～

【市民の役割】

☆まちづくり、ものづくりへの積極的な参加
☆生活の中でチェックする目を持ち、提言し、行動する
☆ひとり一人がみんなの役割を認め合い、支えあう心が大切。困っている人に自然に手を差し伸べることのできるまち

【事業者の役割】

☆誰もが利用しやすい商品やサービスづくり
☆ＵＤの考え方を積極的に取り入れ、多様な利用者の意見を聴き、利用しやすいものへと改善。
☆誰もが働きやすい職場環境づくりにも取り組む

【行政の役割】

☆公共施設の整備、行政サービスなど、市の施策をＵＤの視点からチェック、改善し、率先して取り組む
☆大学、他都市、企業等との連携を図り、情報収集に努め、市民や事業者への普及・広報活動、情報発信に取り組むとともに、取り組みに対して支援する

～取り組みの推進とこうべＵＤ広場の役割～

ＵＤ情報の収集・発信　　ＵＤプロジェクトへの取組み　　ＵＤサポーターによる推進

～ユニバーサルなまち神戸を全国・世界へ発信～

おわりに

平成 16 年 1 月 13 日、「復興の総括・検証」について提言が出されました。これは、復興の節目としての震災 10 年目を目前に控え、震災と復興過程の教訓を踏まえ、これからの神戸づくりに生かしてほしいというものです。この中では、「クオリティ・オブ・ライフ（市民生活の豊かさ）」を重要なキーワードとして位置づけており、これはユニバーサルデザインの推進により実現するものと考えています。

この呼びかけは、広場のメンバーが、今の神戸のまちの課題、そして、こんなまちになってほしいという想いを、様々な立場から何度も議論し、取りまとめたものです。

安全で快適な生活は、誰もが望むことであり、それは自分自身の問題であることにみんなが気づき、一人ひとりがひとつずつ取り組んでいかなければなりません。そうすれば、私たちのめざす「ユニバーサルなまち神戸」は必ず実現するものと確信しています。ユニバーサルな社会とは、誰もが生活するうえで不便さや不自由さを感じることなく、あたり前のことが当たり前にできる社会であると考えます。

震災から 10 年にあたる平成 17 年には、「ユニバーサルなまち神戸」の一端を全国・世界に発信していきたいと思います。そこでは、市民やＮＰＯ、事業者、行政がユニバーサルな社会の実現に向け取り組んでいる姿を広く伝えていきます。

このこうべＵＤ広場の想いが神戸のまち全体に広がり、ひとりでも多くの方に理解され、行動していただけることを期待します。

みんなで実現に向けた強い意志をもち、一丸となって取り組んでいきましょう。

最後に、広場のメンバーから紹介された詩をここに記します。

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面（じべた）を速くは走れない。

私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

～金子みすゞ全集(JULA 出版局)
「私と小鳥と鈴と」より～

参考資料編

こうべＵＤ広場（こうべユニバーサルデザイン推進会議）メンバー

(50 音順・敬称略)

氏　名	ふりがな	所　属　等
岩崎　俊延	いわさきとしのぶ	㈲プランまちさと代表取締役
大石　祥司	おおいししょうじ	神戸市立太山寺中学校校長
大塚　照子	おおつかてるこ	公募
片岡　タル子	かたおかたるこ	公募
神谷　良子	かみたによしこ	神戸ライフケア協会理事・副事務局長
後藤　真一	ごとうしんいち	神戸商工会議所経済部地域振興チーム課長
小西　宏子	こにしひろこ	神戸市消費者協会
佐藤　厚子	さとうあつこ	六甲道駅北地区まちづくり連合協議会公園検討専門部会座長
下山　鉄師	しもやまてつのり	公募
鈴木　麻衣子	すずきまいこ	公募
竹中　ナミ	たけなかなみ	社会福祉法人プロップステーション理事長
竹本　健次	たけもとけんじ	神戸市立摩耶小学校校長
田中　直人	たなかなおと	摂南大学教授
泥　　可久	どろよしひさ	公募
中井　純子	なかいじゅんこ	公募
中村　三郎	なかむらさぶろう	神戸市保健福祉局長
中村　茂和	なかむらしげかず	公募
西尾　麻也子	にしおまやこ	公募
西口　範子	にしぐちのりこ	公募
水越　敦子	みずこしあつこ	公募
見寺　貞子	みてらさだこ	神戸芸術工科大学助教授
森﨑　清登	もりさききよと	近畿タクシー㈱代表取締役社長 （長田区ＵＤ研究会会長）
吉田　幸治	よしだこうじ	生活協同組合コープこうべ福祉介護事業部係長
吉富　志津代	よしとみしずよ	多言語センター　ＦＡＣＩＬ（ﾌｧｼﾙ）代表
（事務局）		
長坂　隆	ながさかたかし	神戸市都市計画総局技術管理課長
三原　隆司	みはらたかし	神戸市保健福祉局計画調整課主幹

《オブザーバー参加者名簿》

氏　名	ふりがな	所　属　等
下村　治生	しもむらはるお	神戸青年会議所　専務理事
永井　秀憲	ながい ひでのり	保健福祉局　総務部長
谷　　真行	たに まさゆき	市民参画推進局　広報課主幹
柳谷　茂昭	やなぎたに しげあき	市民参画推進局　市民活動支援課長
矢内　隆夫	やない たかお	生活文化観光局　消費生活課長
中瀬　俊明	なかせ としあき	生活文化観光局　観光交流課長
上田　享史	うえだ きょうじ	生活文化観光局　国際交流課長
小竹　敏夫	こたけ としお	保健福祉局　主幹（人権推進担当）
木原　勇	きはら いさむ	産業振興局　主幹（生活産業担当）
水池　由博	みずいけ よしひろ	建設局　道路部工務課長
千代　栄司	ちしろ えいじ	建設局　公園砂防部施設課長
井澤　元博	いざわ もとひろ	都市計画総局　計画部計画課長
松岡　進一	まつおか しんいち	都市計画総局　建築技術部設備課長
川島　一人	かわしま かずひと	交通局　経営企画調整課長
野々上　薫	ののうえ かおる	教育委員会　指導部人権教育課主席指導主事
片山　昌俊	かたやま まさとし	長田区　まちづくり推進部まちづくり支援課長

（**平成 16 年 3 月**）

こうべＵＤ広場（こうべユニバーサルデザイン推進会議）への参画について（呼びかけ）

（趣旨）

神戸は六甲山系を中心とした美しい自然や海・坂・山という変化に富んだ地形を有し、その中で様々な地場産業が育ち、また、全国でも有数の観光地として毎年多くの観光客が訪れる魅力あるまちです。

この美しい神戸のまちをここに住む人や働く人、そして訪れる人にとってさらに魅力あるものとするため、年齢・性別・国籍・障害の有無など人々がもつ様々な個性や違いを互いに認め合い、すべての人が個人として尊重されるとともに、すべての人が持てる力を発揮し、支えあう「ユニバーサル社会」を実現していきたいものです。

神戸は、平成 7 年の阪神淡路大震災で、大きな被害を受けましたが、また、同時に震災を契機に、多くのＮＰＯやボランティアが育ち、市民の助け合いの心が育まれたのも事実です。これらの経験を踏まえ、より安心・安全で快適な、そして、思いやりとやさしさにあふれ、また、産業や地域が活性化した活き活きとしたステキなこうべのまちを私たちの手で実現しましょう。

ユニバーサルデザインは、だれにでもやさしいみんなのためのデザインです。市民ひとり一人が自分たち自身でそんな社会にするのだという強い意思を持ち、神戸を世界一ユニバーサルなまちにするため、思いをひとつにして今ここに集いましょう。

平成 15 年 5 月 15 日

呼びかけ人　田　中　直　人

竹　中　ナ　ミ

森　﨑　清　登

こうべＵＤ広場（こうべユニバーサルデザイン推進会議）の活動経過

平成 15 年 5 月 15 日、摂南大学の田中直人教授、社会福祉法人プロップステーションの竹中ナミ理事長（ナミねぇ）、長田区ユニバーサルデザイン研究会の森崎清登会長の３人から、神戸を世界一ユニバーサルなまちにしようと呼びかけがあり、こうべＵＤ広場（こうべユニバーサルデザイン推進会議）が発足しました。

この呼びかけにより、こうべＵＤ広場には、市民や事業者、学校関係者などの多くの方々が公募等により参画しました。広場では、ＵＤに取り組まれている方を講師として迎えた「ＵＤミニ講座」の開催やＵＤ先進施設の見学などを通して、ＵＤの共通認識を持ちながら、「ＵＤのまち神戸」実現のための方策を幅広く議論し、ＵＤを推進していくための呼びかけづくりや普及啓発のためのイベントを行ないました。

各回とも、議事要旨などについては、ホームページで閲覧が可能です。
アドレス　http://www.city.kobe.jp/cityoffice/18/menu03/t/keikaku/ud/ud_top

◆開催経過◆

日　程	主な議題
第 1 回 **(H15.5.15)**	**①広場の発足** ～呼びかけ人からの趣旨説明、広場メンバー全員からＵＤに対する思いを語る。 **(会場：神戸市役所)**
第 2 回 **(H15.6.12)**	**①UD ミニ講座** ・**「長田区 UD 研究会活動報告」(森崎会長)** ～研究会発足の経緯、これまでの地域に根ざした活動内容について発表。 **②広場の今後の進め方について** ～共通意識を培いながら、都市のイメージ、実現のための手法を模索することや先行のプロジェクトを立ち上げていく。今年度は全市民に向けた「呼びかけ」づくりを目標にする。 **③ＵＤパンフレットの改訂** ～メンバーによるＵＤパンフレットのアンケートをもとに、改善すべき点について検討した。 **(会場：神戸市役所)**

第 3 回 **(H15.7.15)**	**①施設見学：長田区役所** ～改善された案内サイン、ＵＤ商品の展示などを視察。 **②UD ミニ講座** **・「長田区 UD 研究会活動報告」(吉良和人氏)** ～研究会の「ふれあい部会」の活動として、小中学校でＵＤ教育を実践してきたことについて発表。 **・「外国人のくらしについて」(多言語センターFACIL　吉富志津代氏)** ～外国という違う文化、習慣、システムを学び、気付き、ともに暮らしていくことがユニバーサルデザインの精神であることを発表 **③「UD のまち神戸」の都市像について** ～「くらしづくり」、「意識づくり」をテーマに議論 **④こうべユニバーサルデザインフェアについて** **(会場：神戸防災コミュニティセンター)**
第 4 回 **(H15.8.11)**	**①UD ミニ講座** **・「誰もが心豊かに住み慣れた地域で住み続けるために」** **(県総合リハビリテーションセンター顧問　澤村誠志氏)** ～県立リハビリセンターでの活動などを踏まえた福祉のまちづくりについて講義 主な講義の内容としては、 ● リハビリテーションは、回復訓練でなく「全人間的復権」 ● 地域リハビリのゴールはノーマライゼーション ● ユニバーサルデザインとは、歴史、理念 ● 共用品 (ユニバーサルデザインものづくり) ● ユニバーサルデザインとテクノエイドサービスシステム ● テクノエイド (福祉用具、住宅改修) サービスの実際 ● 福祉のまちづくりとは；　理念、兵庫県での足跡、公共輸送機関の利用は人権か？ ● 心豊かな社会づくりにおける住民活動との連携 **明日はわが身** **今は幸い元気で暮らしている。** **しかし、いつ、思いもしない時に、事故にあったり、病気にかかり、手足が動かなくなったり、言葉がしゃべることが出来なくなったりするか、** **誰も明日のことは分からない。** **障害のある人々と共に、暖かい思いやりのある社会を、皆で作りあげたい。** **- Society　for　All -** という言葉で締めくくられました。 **②「UD のまち神戸」の都市像について** **～「まちづくり」、「ものづくり」をテーマに議論** **(会場：しあわせの村　シルバーカレッジ)**

第 5 回 **(H15.9.26)**	**①ＣＪＦ参加報告** ～8 月 21～22 日に千葉の幕張メッセ国際会議場で開催された「チャレンジド・ジャパン・フォーラム（CJF）2003 国際会議 in ちば」に参加された中村さん、水越さんから報告～ **②「“こうべ UD 広場“からの呼びかけ」づくりに向けたチームの設置** ～2つのチームに分かれ、①今後の進め方、②都市像実現に向けた具体的な取組み内容に関する検討、③役割分担などを議論 **③イベント見学** ～神戸ファッション都市宣言 30 周年記念展「神戸ライフスタイル展」～ **（会場：神戸ファッション美術館）**
第 6 回 **(H15.10.21)**	**①施設見学：** ～国際障害者交流センター「ビッグ・アイ」のバリアフリーデザインを監修された田中座長の説明による見学～ **②「UD のまち神戸」の都市像実現のための取組みについて** ～2つのチームに分かれ、意見交換～ **（会場：国際障害者交流センター「ビッグ・アイ」）**
第 7 回 **(H15.11.2)**	**①「こうべユニバーサルデザインフォーラム」の開催** ～「第 7 回こうべＵＤ広場」公開会議　：矢田市長もゲスト参加し、これからのユニバーサルなまち神戸の目指すべき都市像として、「まちづくり」「ものづくり」「くらしづくり」「意識づくり」の4チームのリーダーからの中間発表やユニバーサルデザインのもたらす可能性などについて意見交換をした。 ～子どものＵＤ体験学習の発表　：市内の中学校で”総合的な学習の時間”等を活用し、「まちのＵＤたんけん」や「モノのＵＤ調べ学習」などを通して、人にやさしい『ＵＤのまち神戸』のあり方に、気づき・考え・提案する学習に取り組んでいる。フォーラムでは、渚中学校と長田中学校が成果発表を行った。 ～「ユニバーサルファッションショー」の開催 ～展示コーナー　：「長田区ユニバーサルデザイン研究会」の活動パネルをはじめ、ＵＤに取り組んでいる先進企業や「ひょうご福祉新産業研究会」による身近な文房具や日用品など「ユニバーサルデザイン商品」の展示、ＵＤ学習に取り組む学校の壁新聞などを展示した。 フォーラムは、家族連れの方をはじめ、学生や婦人大学、関連団体などの幅広い層の方々にご来場いただき、延べ 600 名を超える大変盛況なものとなった。 **（会場：ハーバーランド　スペースシアター）**
第 8 回 **(H15.12.18)**	**①ビデオ上映** ～11 月 8 日放映「好き！神戸“神戸から広めよう！ユニバーサルデザイン”」～ **②（仮称）「“こうべＵＤ広場”からの呼びかけ」(案)について** ～全体の構成や、呼びかけの性格など総論部分を中心に議論～ **③こうべＵＤ広場プロジェクトの立上げ(案)について** ～呼びかけ作成後、「ＵＤのまち神戸」の全市展開を目指すべく、まず広場から様々なプロジェクトに取り組むため、事務局からプロジェクトを提案～ **（会場：神戸市役所）**

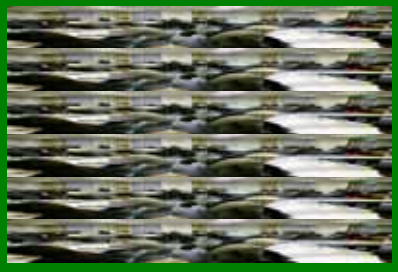
第 9 回 (H16.1.27)	① (仮称)「“こうべUD広場”からの呼びかけ」(案)について ～4つのグループに分かれ、意見募集に向けた呼びかけ案について議論～ ②策定のスケジュールについて ～3 月末の策定に向けた今後の広場開催のスケジュールを確認～ (会場:こうべ市民福祉交流センター)
第 10 回 (H16.2.17)	①「“こうべUD広場”からの呼びかけ (案) 及び市民意見の募集について ～4つのグループに分かれ、意見募集に向けた呼びかけ案について議論～ ②今後の広場の活動について ～今後、広場のメンバーがどのような活動をしていくのか、UDサポーター活動やUDフェア活動、その他の活動を含めて、アンケートを配布～ (会場:神戸市勤労会館)
2/25～3/15	「“こうべUD広場”からの呼びかけ」(案) について広場メンバーから記者発表 ～呼びかけに関するご意見やUDの取り組みについて募集～ 閲覧場所:市役所、各区役所、市政情報室、ホームページなど
3/1～	こうべUDサポーターの募集
第 11 回 (H16.3.17)	①「“こうべUD広場”からの呼びかけについて ② ユニバーサルプロジェクトの立ち上げについて UD情報プロジェクト、こうべUDフェアプロジェクト、しあわせの村UDプロジェクト ③ 平成 16 年度のこうべUD広場の活動について (会場:神戸市役所)

◆呼びかけ策定の経過◆

こうべUD広場（発足）

こうべUD広場（第４回）

こうべUD広場（第９回）



こうべUDフォーラム（11 月）

施設見学（ビッグアイ）

ユニバーサルデザインに関する意識調査結果概要

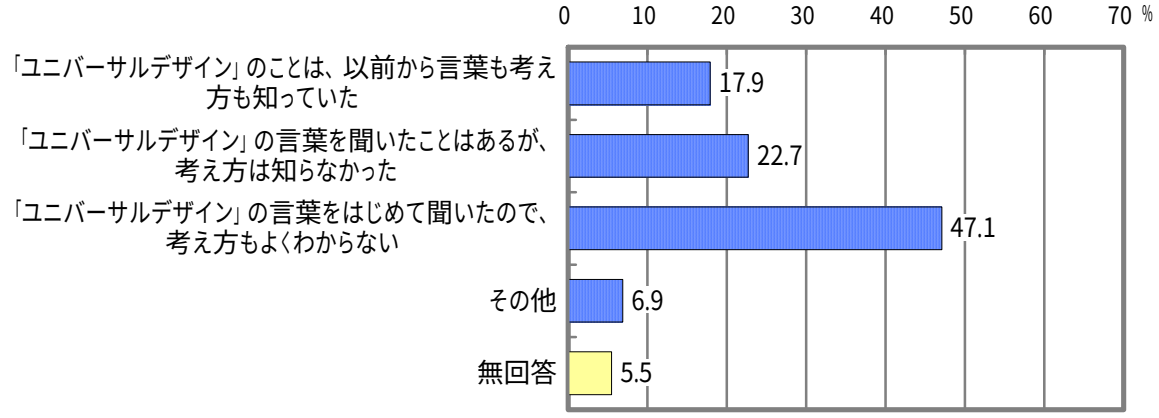
１．調査方法と回収状況

調 査 対 象	15 歳以上の市民 3,000 人（住民基本台帳より無作為抽出）
調 査 方 法	配布・回収とも郵送法
調 査 時 期	平成15年（2003年） ３月
配 布 数 有効到達数	3,000 2,971
有効回答数	896（有効回答率 29.9%）

２．集計結果

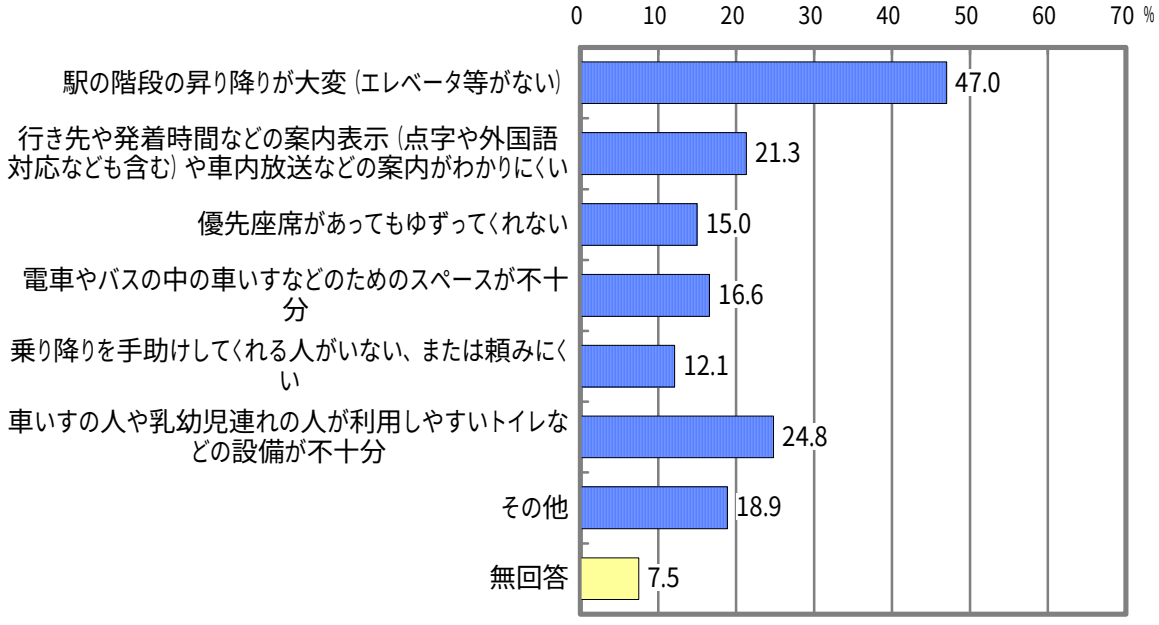
(1)ユニバーサルデザインの周知度、理解度

言葉を知っている人は回答者の４割、考え方も知っている人は２割弱



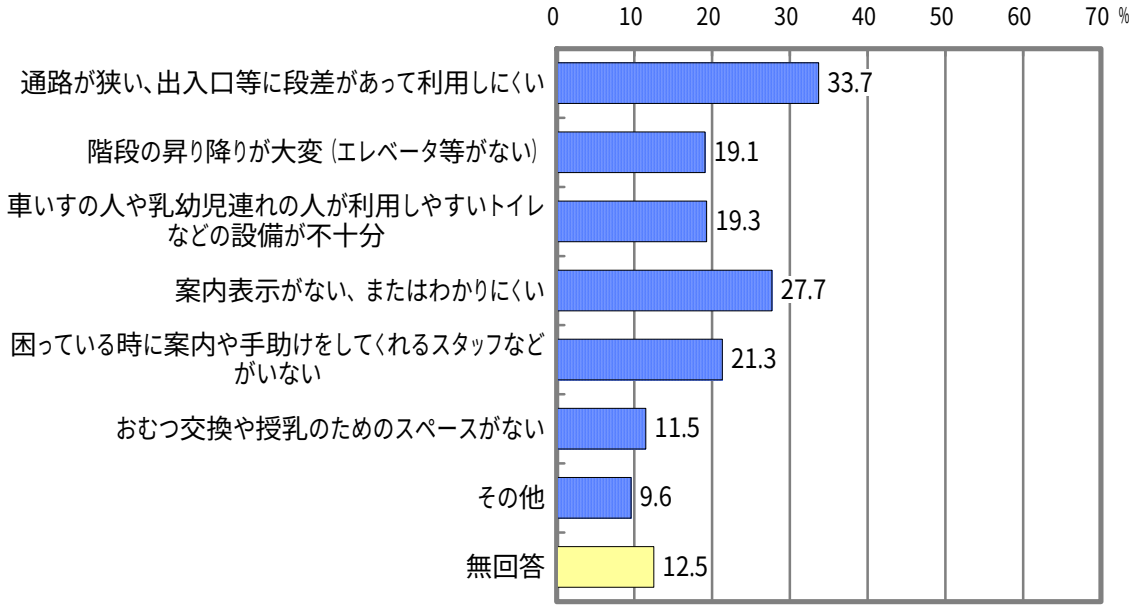
(2) 電車やバスなどを利用される際に、特に困ることは何か。

約半数の人が階段の昇り降りに不便を感じる



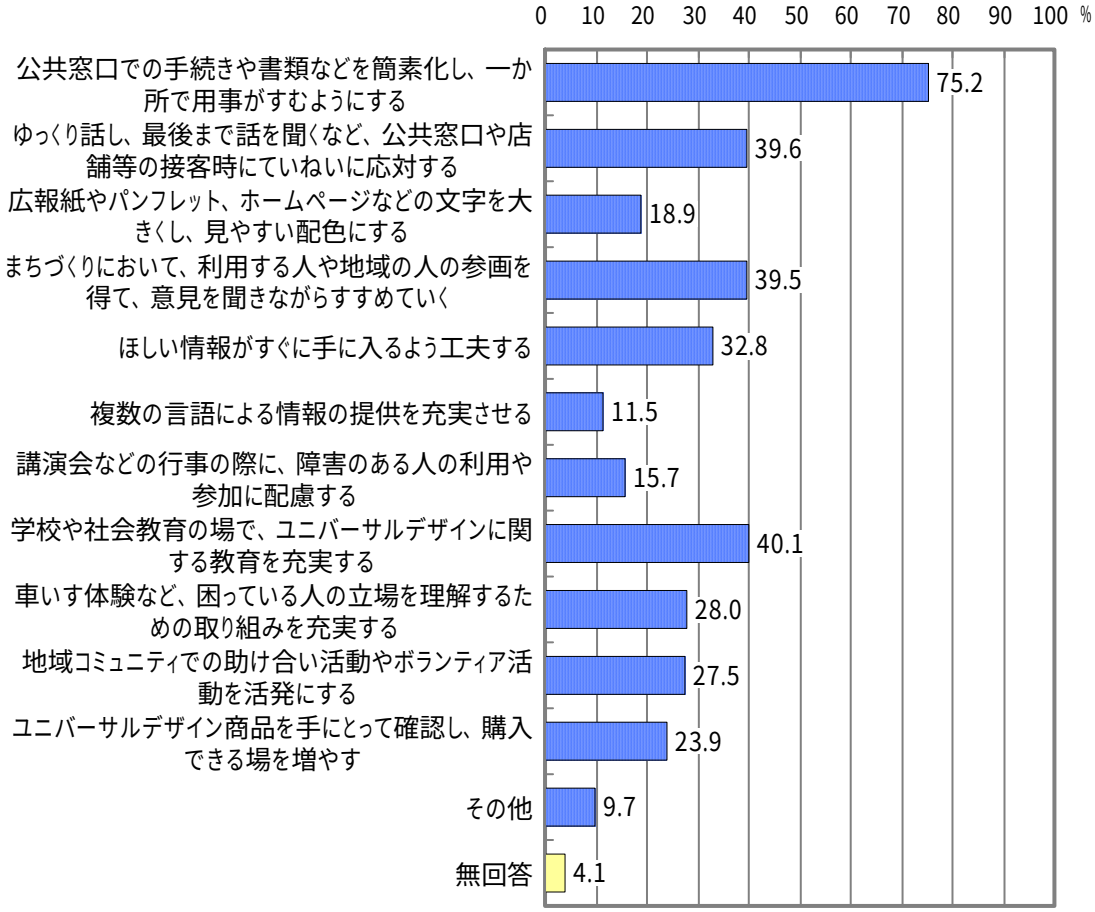
(3)映画館、ホテルなど、多くの人が集まる施設を利用される際に、特に困ることは何か。

３人に１人が通路の狭さや出入口の段差に不便を感じる



(4) 神戸のまちづくりとして、どのような取り組みをすべきか。

４人に３人が公共窓口サービスの改善（ワンストップサービス化）を望んでいる



神戸のユニバーサルデザインへの取り組みの紹介

地域での取り組み

長田区ユニバーサルデザイン研究会

同研究会は、神戸市内でいち早く平成13年7月に発足した。地元企業・ＮＰＯ・地域・小中学校等が共同で、研究・啓発活動を展開している。

定例的な研究活動のほか、「長田発こうべユニバーサルデザインフェア」の開催、「神戸ユニバーサルデザイン大賞」の運営、小中学校へのＵＤ授業（講師派遣）の実施など、さまざまな取り組みを行っている。（http://www.nagata-ud.jp/）

ＪＲ六甲道駅北地区まちづくり連合協議会

地震で壊滅的な被害を受けたＪＲ六甲道駅北地区の震災復興土地区画整理事業の中で、８，０００㎡の公園整備の検討に取り組んでいる。「人にやさしく子どもからお年寄りまでみんなが安心して利用でき、日常的に使いこなせる公園」づくりを目指し、みんなが参加し公園を考える機会をつくるため、ワークショップを開催するなど、設計時からの住民参加の公園づくりを進めている。

NPO　あいあいネット神戸

安全で快適な楽しいショッピングができるユニバーサルデザインであふれる元町商店街を目指して、そのために必要な調査、検証及び提案活動を行なうことで地域のＵＤ化の達成に寄与することを目的としている。

（http://www5d.biglobe.ne.jp/~aiainet/index.htm）

意識づくり（普及・文化・学習）の取り組み

ユニバーサルデザインフォーラム 2003

公開こうべＵＤ広場、ユニバーサルファッションショーやユニバーサルデザインを取り入れた商品の展示などを通して、ＵＤの考え方を広く市民、事業者に普及していくため、「こうべＵＤ広場」が神戸市と共同で開催している。

引き続き、2004 年にも開催し、震災から 10 年目にあたる 2005 年に予定している「ユニバーサルデザイン全国大会」につなげていく。

多言語センターＦＡＣＩＬ（ファシル）

地域の多言語環境の促進をし、専門分野でありながら「無償ボランティア」の領域であった翻訳・通訳活動をコミュニティビジネスとして展開させる。また、地域の外国人コミュニティのコーディネーター役割を果たしている。活動内容として、各種情報の翻訳・通訳、または多言語を使用したさまざまな企画や外国人コミュニティなどに関わる各種調査活動、多言語生活情報誌の発行（８言語、年４回）およびホームページ作成を行っている。（http://www.tcc117.org/facil-kids/facil/total/top.htm）

神戸婦人大学

神戸婦人大学は、女性が自らの生き方を発見し、社会のあらゆる分野における活動に参加並びに参画するための基礎的な能力を身に付けることを目的として設置された 3 年制の学習の場である。15 年度から生活福祉学部にユニバーサルデザイン学科が創設された。

3 年のグループ学習のひとつとして、誰にとっても着やすくおしゃれなものを提案しようという「ユニバーサルファッション」について調査・研究し、ひと工夫された衣類などの作品の提案があった。

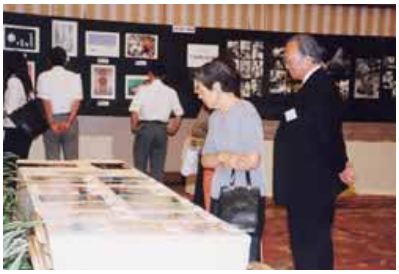
子どものＵＤ学習の取組み

市内の市立小・中学校の ” 総合的な学習の時間 ” 等を活用し、未来を担う子どもたちが思いやりのある人に育つことを目的として、「まちのＵＤたんけん」や「モノのＵＤ調べ学習」などを通して、人にやさしい『ＵＤのまち神戸』のあり方に、気づき・考え・提案する学習に取り組んでいる。

しくみづくり(就労･情報･サービス)の取り組み

社会福祉法人　プロップステーション

プロップ･ステーションは、1998 年に社会福祉法人として認可され、コンピュータと情報通信を活用してチャレンジド（障害者）の自立と社会参画だけではなく、「すべての人が持てる力を発揮し、支え合って構築するユニバーサル社会の創造」という、特に就労の促進と雇用の創出を目標に活動している。また、96 年からチャレンジド・ジャパン・フォーラムを開催している。(http://www.prop.or.jp/)



「チャレンジド・クリエイティブ・プロジェクト」（ＣＣＰ事業）について

兵庫県、神戸市、株式会社フェリシモとプロップステーションが全国に先駆けて実施。兵庫県および神戸市内に所在地を持つ小規模作業所・授産施設などで制作される商品を、品質やデザイン面でさらなる向上を図った上で、市場に流通できるような生産体制を検討し、カタログやインターネットでの販売を行っている。

（http://www.prop.or.jp/CCP/index.html）

おもてなし運動の展開

ハローステーションＫｏｂｅを中心にホテルや集客施設などでおもてなしに関する情報を共有・発信するネットワークシステム「おもてなしネット」を７月に立ち上げた。また、「Ｆｅｅｌ　ＫＯＢＥ観光キャンペーン」にあわせて、観光関連業界と連携して研修を行うなど、おもてなし運動を展開している。

―美しいまち実現に向けた協働の取り組み―

震災復興の過程で培われた重要な市民の取り組みを継承し、人が集い、訪れ、働き、住み続けたいまちを実現していくために、地域、ＮＰＯ、企業、行政が連携、協働して、ごみや落書きのないホスピタリティあふれる美しいまちづくりに取り組んでいる。

外国人のためのワンストップサービスの整備

神戸国際コミュニティセンターが行っている相談業務について、現在の英語、中国語に加え、新たにハングル、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語の４言語の通訳者を週１日配置し、多言語化を図るとともに、行政情報、生活情報等の多様な情報を多言語で提供する。

案内サイン、パンフレットなどの多言語化

案内板を、多言語（日本語、英語、ハングル、中国語）表記した。また、外国人旅行者にもわかりやすい多言語の観光ガイドブック・マップを作成し、観光案内所等で配布する。

まちづくり(公共施設･交通機関)の取り組み

「神戸市バリアフリー道路整備マニュアル」に基づく歩道整備

ＵＤの視点が入ったすべての人に使いやすい道路構造基準により、交通バリアフリー基本構想に定める特定経路やその他の道路を改修整備している。

《内容》横断歩道部の段差を、車いす利用者の歩行性と視覚障害者の認知が両立する段差として２㎝に縮小、案内サインの充実、点字ブロックの JIS 化など

御崎公園におけるユニバーサルデザインの導入

利用する人の立場に立った施設とするため、住民と何度も話し合いの場を設け、子供やお年寄りなど幅広い年齢層を対象に、誰にでも使いやすいといったユニバーサルデザインの視点を導入している。

(1)障害のある人への配慮
(2)ピクトサイン（絵文字）を活用した案内 (3)多機能トイレ
(4)こどもからお年寄りまで楽しむことができる遊具・器具等

神戸ユニバーサルシティ計画

三宮地区における地下・地上・デッキレベルの歩行者動線の３層ネットワーク構想の実現を目指し、三宮交差点西側において、中央幹線を横断するデッキ・エレベーター、エスカレーターの整備やＪＲ三ノ宮駅北側のエレベーター整備を行う。

また、三宮駅周辺を含む「神戸三宮駅南地域」が都市再生緊急整備地域として指定されており、民間事業者による神戸新聞会館跡地のビル計画と連携し、デッキ、バスターミナル、地下通路の整備を推進する。

公共建築物における取り組み

・福池、住吉地域福祉センターでのモデル事業の実施
・「灘区新庁舎ユニバーサルデザイン研究会」（都市公団、市関係部局等から構成）の開催（14 年 7 月から）
・「神戸空港ユニバーサルデザイン研究会」の開催（16 年 2 月から）
・ＵＤサイン調整会議（神戸空港～三宮地区等）の開催（16 年 3 月から）

「だれでもトイレタウン」計画

ＵＤの取り組みの一つとして、身近な「トイレ」を取り上げ、車椅子の方、お年寄り、乳幼児連れの方、妊婦、子供、オストメイトなど、だれもが使いやすいトイレ（だれでもトイレ）の整備を進めるために、「だれでもトイレタウン」計画を進めている。買物客、観光客などが多い、三宮・元町・北野・ハーバーランド地区をモデル地区として、「だれでもトイレ」の整備を公共の建物で進めるとともに、民間の各事業者にも協力依頼し、整備を進めていく。

市営地下鉄海岸線

平成１３年７月に開業した海岸線全駅では、エレベーター・多機能トイレ、目の不自由な方を対象とした触知図の整備をはじめ、出入り口、改札、プラットホームなど場所ごとに音色を変えて、心地よさだけでなく、目の不自由な方にも音サインとして、情報を伝えている。

ノンステップバス

乗客が乗り降りしやすいように床面を低くして、乗降口の段差をなくしたバスで、中扉部にはスロープ板を装備しており、車椅子利用の方も楽に乗降できるようになっている。

ものづくりの取り組み

ひょうご福祉新産業研究会

研究会は、神戸、三木を中心とした地場産業の技術を核に異分野連携で、様々な背景、強み、ロジックをもつ異分野の人の積極的な参画により、これからの社会に必要な様々なユニバーサルデザイン商品の開発に取り組んでいる。

（http://www.tokokizai.co.jp/hyogo-fsk/）

「どこでもチェア」、「浴室用ガッチリ踏み台」

東光機材（株）（三木市）と（株）タイセイ（神戸市長田区）の技術を組み合わせた能的な高齢社会対応型 UD 商品。

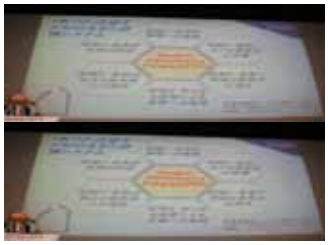
「神戸ミニヤード」　（有）ノヴァ研究所　三木市

障害のある人も、お年寄りも子供も遊べる神戸生まれのユニバーサル玩具。ビリヤードと同様に玉をポケットに入れる楽しいゲームです。神戸の新しい文化として世界に発信しようと、長田区に日本ミニヤード協会も発足した。

しあわせの村では、ミニヤード大会が定期的に開催され注目を集めている。

ユニバーサルデザインシンポジウム

ファッション都市宣言３０周年記念『神戸ライフスタイル展』の関連イベントとして、ＵＤ先進企業 10 社が集まり、ＵＤのもたらす可能性やこれからのライフスタイルに必要とされる未来のデザインについて、プレゼンテーションを行った。また、ＵＤ展示コーナーでは、実際の商品に触れ、企業の担当者とディスカッションができるレクチャーも実施した。



用語の解説

あ

●ＩＴ（アイ・ティー）

情報技術(Information Technology)、コンピュータやデータ通信に関する技術を総称的に表す。

●ＮＧＯ（エヌ・ジー・オー）

「Non-Government Organization」の略で、非政府組織。政府の関与なく、民間によって設立および活動する組織の総称。

●ＮＰＯ（エヌ・ピー・オー）

「Non-Profit Organization」の略で、商業的利益を目的としない非政府団体・民間非営利組織のこと。NPOは株式会社など営利企業とは違い、利益を関係者に分配することができない。福祉、環境、教育、人権問題など、公益活動に取り組むボランティア的団体が多いのが特徴。

●オストメイト対応設備

オストメイト（手術を受けて人工肛門や人工膀胱保持者となった方）が利用しやすいように、便所などに温水シャワー、専用流し台を整備。

か

●公益的施設

病院、劇場、官公庁舎など、不特定多数の人が利用する施設及びこれらに準ずる施設をいう。兵庫県福祉のまちづくり条例では、高齢者や障害者等の方々が安全で快適に利用できるようにするために必要な基準(『整備基準』)を定め、その整備をすすめることとしている。

●交通バリアフリー法

高齢者、身体障害者等の方々が電車やバス等の公共交通機関を利用した移動の利便性・安全性の向上を促進するため、鉄道駅等の旅 客施設及び車両について、公共交通事業者等によるエレベーターの設置や低床バスの導入などのバリアフリー化を推進するなどの措置を求める法律で、平成12年に制定された。正式名称は、「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」

●神戸市バリアフリー道路整備マニュアル

三宮などの市街地で高齢者や身体障害者の方々の利用の多い施設を結ぶ歩道を中心として適用していく神戸市の道路整備基準。

◆主な基準（新たに歩道を整備する場合）

歩道と車道の段差：横断歩道部には、０～２㎝のすり付け縁石を採用。

休憩施設：急な坂道にはベンチなどの休憩できる場所を設ける。

視覚障害者誘導用ブロック：従来の神戸市独自のタイプを、全国共通のＪＩＳ化等

●骨伝導システム

耳 （鼓膜）から音を聞くのではなく、骨（頭蓋骨）に振動を与え直接聴覚神経に伝える仕組み。障害箇所に影響されずに音声を脳まで伝えることができるので、音声を明瞭に聞き取ることができ、聴覚に障害のある人だけでなく、最近では騒音の中でも聴こえやすいということから、骨伝導を使った携帯電話も登場している。

さ

●視覚障害者誘導用ブロック

視覚障害者を誘導・案内するため、路面に周囲と異なった物で敷設され、線で表示する「誘導ブロック」は施設同士を結ぶ道路や通路に、点で表示する「警告ブロック」は通行動線の結節点や状況変化地点、施設の出入口などに敷設される。色や材質は敷設面によって異なるが、汚れにくく丈夫で、敷設する路面とのコントラストが明確に判別できるものを用いる。

●ショップモビリティ

2000年より、新長田地区の商店街などで進められてきた電動カート貸出サービスなどをいい、電動カートや車椅子などを、障害のある人やお年寄りなど移動が困難な人に貸し出し、商店街を中心とした施設を利用しやすくするシステムである。

た

●低床バス（ノンステップバス等）

バスのバリアフリー対応の一つで、バスの床面を下げ車内の段差をなくすことで、高齢者や子供の乗り降りがしやすくなる。スロープをつけることで車椅子も乗り降りしやすくなり、今後は交通バリアフリー法の施行に基づき、順次、導入が進められている。

●電動カート

電動スクーター、電動三輪車、電動四輪車とも。歩行者と同じ扱いになり、運転免許証がなくても利用できる。→ショップモビリティ

は

●バリアフリー

バリアフリーとは、障害のある部位によって必要とされる設備や器具が異なってくるので、例えば、視覚障害者のための誘導ブロックや点字シートなど、障害の部位ごとに障壁（バリア）を除去していくという考え方

建物や物などの物理的なものの他に、より広く高齢者や障害者等の社会参加を困難にしている社会的、制度的、心理的なものをなくすことにも使われている。

や

●要約筆記

会議やイベントなどで、人が話している内容を要約したものをその場でスクリーンに映し出して文字として見せること。最近では、パソコンに入力して映し出す手法もある。

わ

●ワークショップ

参加者が自主的に運営する集団の中で討論などを行う方式の研究会などのことをいう。

ユニバーサルデザイン（ＵＤ）

ユニバーサルデザインとは、アメリカのノースカロライナ州の建築家でもあり、工業デザイナーであるロナルド・メイスがバリアフリーにかわる概念として提唱した。出来る限り最大限すべての人に利用可能であるように、本来は「製品・建物・空間」をデザインするという考え方。

世界一ユニバーサルなまち神戸をめざして

2004年(平成16年) 3月発行

発行 ：こうべUD広場(こうべユニバーサルデザイン推進会議)
事務局　神戸市保健福祉局総務部計画調整課
〒650-8570　神戸市中央区加納町6丁目5番1号
TEL 078-322-6243　FAX 078-322-6039
ホームページ ：
http://www.city.kobe.jp/cityoffice/18/menu03/t/keikaku/ud/ud_top